

SONY®

ステレオ ターンテーブル システム BIOTRACER

PS-X75



取扱説明書

この製品の機能を十分に生かして正しくお使いいただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにもう一度ご覧ください。きつとお役に立ちます。

お買い上げいただきありがとうございます。

PS-X75は、アーム内に独立した垂直、水平専用のリニアモーターを組み込み、マイクロコンピューターとの組み合わせにより電子制御を可能にしたトーンアームBIOTRACERを搭載したプレーヤーシステムです。フロントパネル右側はオートプレイ機能、左側にはマニュアルプレイ機能用のつまみ類が配置されており、フルオート機でありながら、完全なマニュアル操作も楽しんでもいただける設計になっています。使いやすさ、多機能な操作、性能ともに優れたPS-X75を末永くご愛用ください。

目次

主な特長	3
安全上の注意	4
取り扱い上の注意	4
各部の名称と働き	6
組み立てかた	8
ターンテーブル、カートリッジ	8
トーンアームの調整	9
ゼロバランスのとりにかた、適正針圧のかけかた、	
トーンアーム/アームレストの高さ調整、	
オーバーハングの確認	
接続	10
レコード演奏	11
オート(自動)演奏、マニュアル演奏(途中から演奏を	
始める場合など)、演奏を一時中断するには	
演奏中に別の曲に移るには、演奏を途中でやめるには	
リピート演奏をするには	
レコードの頭出し(キューイング)	12
針降下位置の調整	13
手入れのしかた	13
主な規格	14
保証書とアフターサービス	14
故障とお考えになる前に	15

主な特長

電子制御トーンアーム“BIOTRACER”採用

垂直、水平方向ともアームの速度を検出し、内蔵のリニアモーターにフィードバックすることにより、アームの振動、特に低域の共振が抑えられます。この結果、S/Nが改善され、音質が向上しました。

電子式針圧コントロール、オートアンチスキューティング

針圧は、前面のつまみをセットするだけで、電子的にかかります。このため、レコードを聞きながら、針圧を変えて最適な針圧を選ぶこともできます。また、針圧設定によりアンチスキューティングに必要な力も自動的に得られます。

針圧、アンチスキューティングとも針がレコード面に降りた時点で設定した値にかかるため、アームレスト付近ではつまみの位置に関係なくゼロバランス調整ができるようになっています。

レコードサイズ自動検出

レコードのサイズ(30cmまたは17cm)を光学的に検出してアームが自動的に動作します。また、ターンテーブルにレコードがない場合に、うっかりスタートボタンを押しても、アームは降りないでアームレストに戻ってくる安全設計になっています。

電子式無接触フルオート機構

トーンアームのリードイン、リターンは、光学的に読みとるルミナスセンサーによりその降下位置、リターン位置を検出し、リニアモーターで動作させています。このため、正確かつ機械音のきわめて少ない操作が楽しめます。

アームリフターのフロント操作

アームリフターのアップ/ダウン操作は専用のリニアモーターでコントロールされており、ダンパーには速度フィードバック回路を使い、温度変化、経年変化の極めて少ないスムーズな操作ができます。また、アームがアップの状態では、ミュート機能が働き、アームがレコード盤上に降りてから解除されるようになっています。このため、針を降ろす度にアンプのボリュームを下げるわずらわしさがなくなりました。

素早いリピート操作

水平リニアモーターを電子的にコントロールすることにより、リピート動作は、アームがターンテーブルの外周付近まで戻るとすぐに始まります。

トーンアーム移動ボタン

ボタンを押すだけでトーンアームを希望の位置に移動できます。最初の0.5秒間はゆっくりと、その後は速く動作します。このため、ボタンを押し続けたり、押しやすく離すことにより、アームの移動量を自由にコントロールできます。アップ/ダウンボタンと一緒に使って、ダストカバーを閉じたままでも、お好きなどころから演奏を楽しめます。

クリスタルロック・マグネティクスサーボ方式

ターンテーブルの回転系には、高精度な回転検出として定評のあるマグネディスク方式と、水晶の高精度な発振周波数を基準とした位相ロックを採用し、ドリフトの少ない正確な回転を得ています。また、ソニー独自のサーボICにより、信頼性の高いサーボ方式が実現しました。

リニアBSLモーター

ワウ・フラッターやS/N劣化の原因となるコギングの少ないリニアBSLモーターの採用により、スムーズで静かな回転が得られます。トルクの高いモーターで、起動特性も $\frac{1}{2}$ 回転と早くなっています。

電磁ブレーキ付きの使いやすいターンテーブル

トーンアームとは独立してターンテーブルの回転を自由にスタート、ストップできるため、レコードの頭出し演奏が簡単にできます。また、電磁ブレーキの採用により、ターンテーブルの停止はスムーズかつ早くなり、一段と操作がし易くなりました。

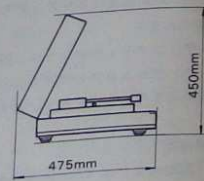
安全上のご注意

- キャビネット(上面、底面とも)は絶対にはずさないでください。内部に手を触れると感電することもあり、とても危険です。
- このプレーヤーは国内用(AC 100V)ですので、海外では使えません。
- 内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや金属類を落としたりしないでください。故障や事故の原因になります。
- 長期間お使いにならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。その際は、コードを引っぱらず、必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、落としたりして傷をつけないように注意してください。傷がついたまま使うと危険です。
- プレーヤーに異状や不具合がおきた場合は、すぐ電源コードをコンセントから抜いて、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

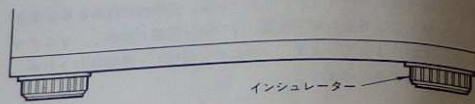
取り扱い上のご注意

置き場所について

- 次のようなところは避けてください。
スピーカーの振動、ドアの開閉による振動、歩くときのゆれなどの影響のあるところ。スピーカー、テレビ、蛍光灯、ドライヤーの近く。直射日光のあたるところ。湿気、ほこりの多いところ。
- 振動の少ない、水平な場所に後部を10cmくらいあけて置いてください。下図はダストカバーをあげたときの寸法です。



- 本機には外部からの振動やハウリングを防止するために、インシュレーター(防振ゴム足)が付いています。置き場所が水平でない場合は、インシュレーターを回して、プレーヤーが水平になるように調整してください。

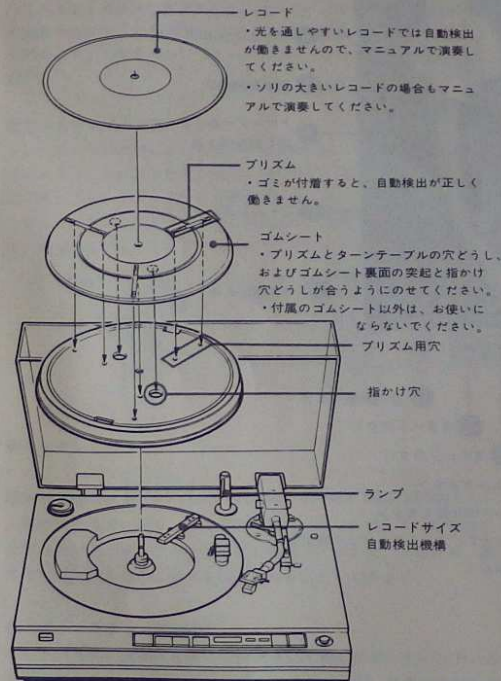


*ハウリング

スピーカーから出る音は床や周囲の空気を振動させます。プレーヤーの置き場所が正しくないと、カートリッジがこの振動を拾い、アンプで増幅され、再びスピーカーから音が出てまた拾うというサイクルをくり返し、「ポーッ」とか「ブーン」という音が出ます。一種の共振現象で、これをハウリングといいます。ハウリングを防止するには、インシュレーターの使用の他に、スピーカーから離れたり、方向を変えてみたり、また、ブロックなどの固い台の上にプレーヤーを置いてみることも効果があります。

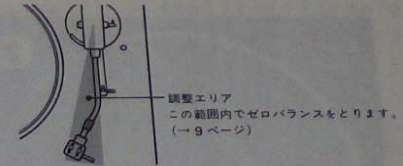
レコードサイズ自動検出について

レコードサイズの検出は、ランプの光によりレコード盤の有無をゴムシート上のプリズムを通して光学的に感知する方法を採用しています。すなわち、内側のプリズムが覆われて外側のプリズムから光を感知した場合は17cm、両方のプリズムとも覆われて光を感知しない場合は30cm、さらに両方とも光を感知した場合はレコードがないものと判断し、アームはターンテーブル上に降りないようにしています。このため次の点にご注意ください。



トーンアームの調整エリアについて

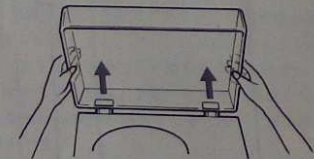
本機は、針圧調整つまみで電子的に針圧をかけるようになっていますが、このつまみの位置に関係なくゼロバランスがとれるように、調整エリアが設けられており、この範囲では針圧は常に「0」になります。



ゼロバランス調整時には、アップ/ダウンボタンを押してアームをダウンにしますが、このエリアの外にアームが出ると、針先保護のためアームは自動的にアップになります。このときは、アームをエリア内に戻しアップ/ダウンボタンを押すとアームは下がります。同様に、レコード盤上に降りているアームをこのエリア内に手で持っていくと、アームはアップの状態になります。

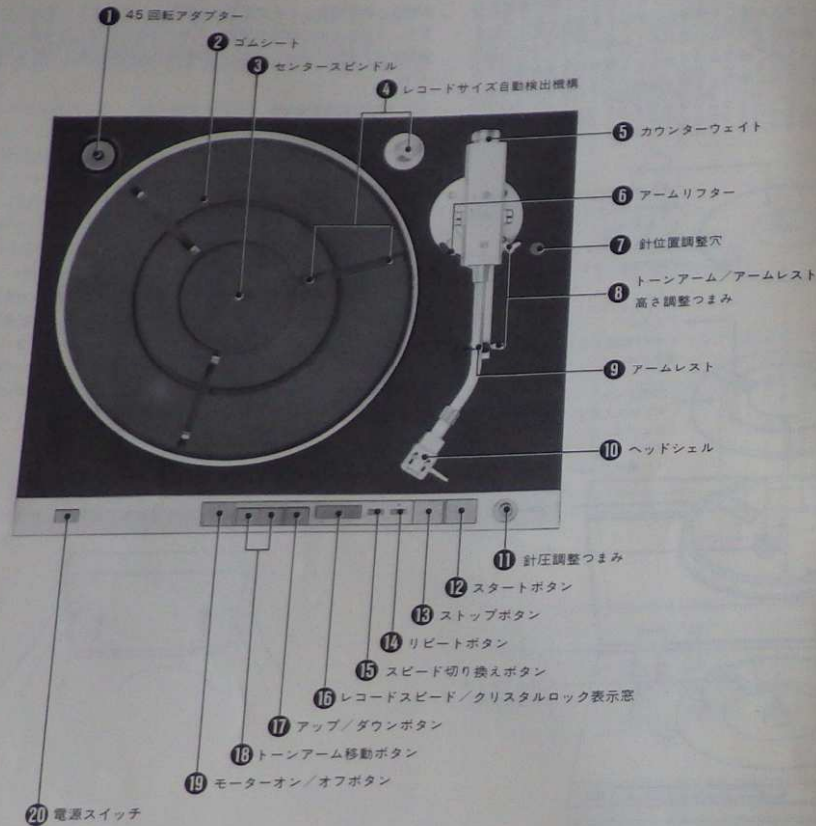
ダストカバーのはずしかた

カバーを一杯に開き、矢印の方向(上方)に引き上げてください。



各部の名称と働き

下の写真はターンテーブルの組み立てを完成したところです。



① 45 回転アダプター
45 回転（ドーナツ盤）のレコードを聞くときに使用します。

② ゴムシート
レコードサイズ自動検出のため、ゴムシート上のプリズムとターンテーブルの穴どうし、およびゴムシート裏面の突起とターンテーブルの指かけ穴どうしが合うようにのせてください。

③ センタースピンドル

④ レコードサイズ自動検出機構
ゴムシート上のプリズムを通して、ランプの光によりレコード盤の有無を検出し、レコードのサイズ（30cm、17cm）に合わせてトーンアームを自動的に動作させます。ターンテーブルにレコードをのせずにはうっかりスタートボタンを押しても、アームはターンテーブル上に降りないでリターンする役割も兼ねています。

⑤ カウンターウェイト
カートリッジをとり付けたら、カウンターウェイトを動かして、アームが水平になるように調整します。（⇒9 ページ“ゼロバランスのとりにかた”）

⑥ アームリフター

⑦ 針位置調整穴
オート（自動）演奏時に、針がレコード盤上に降りる位置がずれた場合は、中のネジで調整します。（⇒13 ページ“針降下位置の調整”）

⑧ トーンアーム／アームレスト高さ調整つまみ
カートリッジがレコード面を水平にトレースするようにアームの高さを調整します。各々のつまみをゆるめ、トーンアームの高さ調整つまみを左または右に動かすことによりアームレストの高さも同時に調整されます。調整範囲は±3mmです。調整後は各々のつまみを締めます。（⇒9 ページ“トーンアーム／アームレストの高さ調整”）

⑨ アームレスト
トーンアームの調整およびレコード演奏時には、電子コントロールによるアームの自由な動きを妨げないために、アームレストの止めをはずしておきます。アームの調整時には、アームレストを上にしてから止めの向きを後方に変えます。お使いにならないときは、安全のためアームをアームレストに固定しておきます。



⑩ ヘッドシェル

⑪ 針圧調整つまみ [STYLUS FORCE (ANTI SKATING)]
お使いになるカートリッジの針圧に合わせることで、電子的に針圧およびアンチスキージングの調整ができます。このため、演奏中に音聞きながら針圧を変えてみることもできます。

⑫ スタートボタン [START]
オート（自動）演奏のときにこのボタンを押します。トーンアームが自動的にレコード盤上に降り演奏が始まります。演奏が終わると、ターンテーブルは止まりアームは自動的にアームレストに戻ります。演奏中にこのボタンをもう一度押すと、アームはレコードの頭に戻って再び演奏を始めます。レコードのダビングで、演奏しながら録音レベルを決めてから、また頭に戻って録音を開始するときなどに便利です。

⑬ ストップボタン [STOP]
レコード演奏を途中でやめるときに押します。ターンテーブルは止まりアームは自動的にアームレストに戻ります。

⑭ リピートボタン [REPEAT]
リピート演奏するときに押します。インジケーターが点灯します。もう一度押してリピートを解除するまでくり返して演奏します。ストップボタンを押すとリピートは解除され、ターンテーブルは止まりアームはアームレストに戻ります。

⑮ スピード切り換えボタン [SPEED]
お聞きになるレコードの回転数に合わせます。電源を入れたときは自動的に33回転にセットされ、回転数は左の表示窓に現れます。

⑯ レコードスピード／クリスタルロック表示窓
レコードのスピードが表示されます。また、ターンテーブルの回転がクリスタルロックにより規定の回転にロックされると LOCKED の表示が出ます。

⑰ アップ／ダウンボタン [ARM TRANSPORT ▲、▼]
トーンアームの上げ下げをします。トーンアーム移動ボタンと一緒に使って、ダストカバーを閉じたままで、レコードのどの位置からでも自由に演奏ができます。

⑱ トーンアーム移動ボタン [ARM TRANSPORT ◀、▶]
アームを内側に動かしたいときは◀のボタンを、外側に動かしたいときは▶のボタンを押します。アームは自動的に上がり、押ししている間だけ移動します。針の降ろす位置をわずかにだけずらしたいときは、このボタンを1回、2回、3回……と、動かしたい幅に応じて押します。途中から演奏を始めるとき、途中で演奏箇所を変えるときなどに便利です。

⑲ モーターオン／オフボタン [MOTOR ON/OFF]
トーンアームの動きと独立して、ターンテーブルの回転をスタートまたはストップ状態にします。途中から演奏を始めるとき、曲の頭出しなどに使います。（⇒12 ページ“レコードの頭出し”）

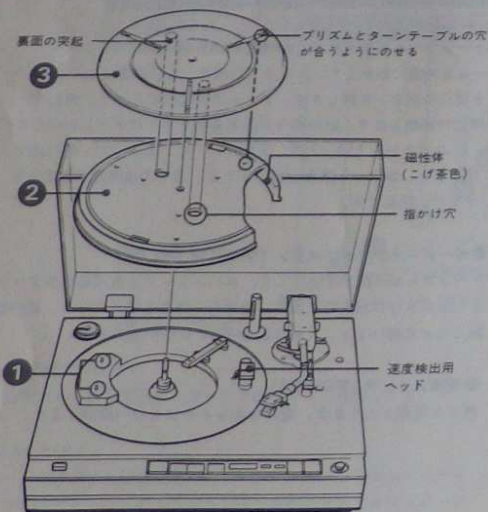
⑳ 電源スイッチ [POWER]
押すと電源が入ります。電源を切るときはもう一度押します。

組み立てかた

- 輸送用材をすべてはずし、全体をきれいにふいてください。
- 安全のため組み立てが終わるまで、電源コードや接続コードはつないでください。

ターンテーブル

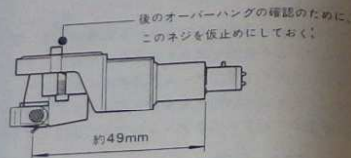
- ①輸送用ネジ2本(赤)をとりはずします。
とりはずしたネジは再輸送の場合に必要ですので、保管しておいてください。
- ②ターンテーブルをのせます。
このとき、速度検出用の磁性体コーティング面(こげ茶色の部分)を傷つけたり、検出用ヘッドに手を触れたりしないようにしてください。
- ③ゴムシートをのせます。
ゴムシート裏面の突起とターンテーブルの指かけ穴を合わせ、ゴムシート上のレコードサイズ自動検出用のプリズムとターンテーブルの穴が合うようにのせてください。



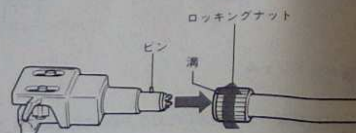
カートリッジ

付属のヘッドシェル(自重11g)使用では、補助ウェイトなしで1-8gまで、補助ウェイトを使えば8-15gのカートリッジがお使いになれます。カートリッジの説明書も参考にして取り付けてください。

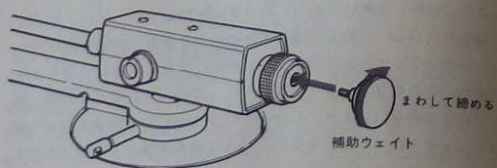
- ①シェルのリード線をカートリッジにつなぎます。
シェルのリード線 カートリッジのピン
白 → L(左チャンネル信号)
青 → LEまたはG(左チャンネルアース)
赤 → R(右チャンネル信号)
緑 → REまたはG(右チャンネルアース)
- ②シェルの根元と針先の距離が約49mmになるように取り付けます。後のオーバーハングの確認のためにピスは仮り止めにしておきます。



- ③シェルのピンとトーンアームの溝を合わせて、シェルをアームに押しながらロッキングナットをまわして最後までしっかり締めます。



- ④カートリッジの重さが8-15gの場合は、補助ウェイトを取り付け、最後までしっかりしめます。

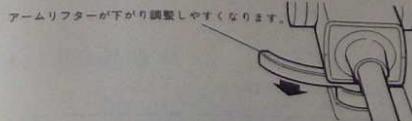


トーンアームの調整

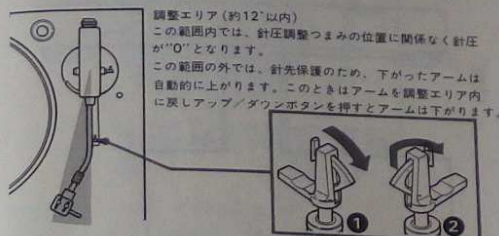
本機はトーンアームを電子制御しているため、必ず電源スイッチをONしてから、以下に続く調整を行なってください。

ゼロバランスのと리카た

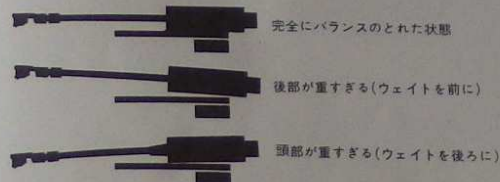
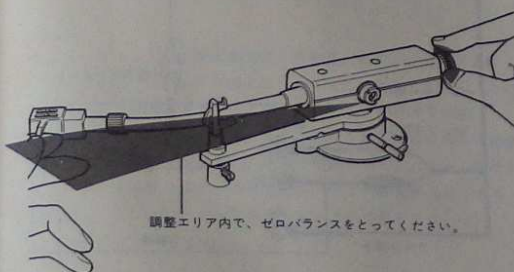
- ①アップ/ダウンボタンを押し、アームリフターを下げます。



- ②アームレストの向きを変え、アームを手で支えます。このとき、アームを調整エリアの外に持っていかないようにしてください。



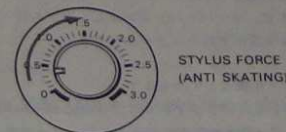
- ③針カバーをはずし、アームが水平状態で停止する(ゼロバランスがとれる)ように、カウンターウェイトを回転させながら調整します。



- ④ゼロバランスがとれたら、アップ/ダウンボタンを押してアームリフターを上げ、アームレストを元に戻してアームを固定します。

適正針圧のかけかた

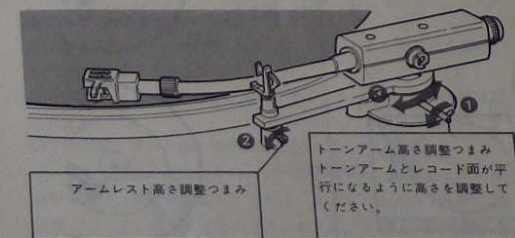
針圧調整つまみをまわして、お使いになるカートリッジの適正針圧に合わせます。調整範囲は0-3.0gです。



トーンアーム/アームレストの高さ調整

トーンアームがレコード面を水平にトレースするように、お使いになるカートリッジに合わせてアームの高さを調整します。

- ①レコードをのせ、アップ/ダウンボタンを押してカートリッジをレコード盤上に降ろします。
- ②トーンアーム高さ調整つまみを手前に引いてゆるめ、さらにアームレスト高さ調整つまみをゆるめます。トーンアーム高さ調整つまみを右または左に動かして、アームがターンテーブルと平行になるようにします。このときアームレストの高さも同時に調整されます。

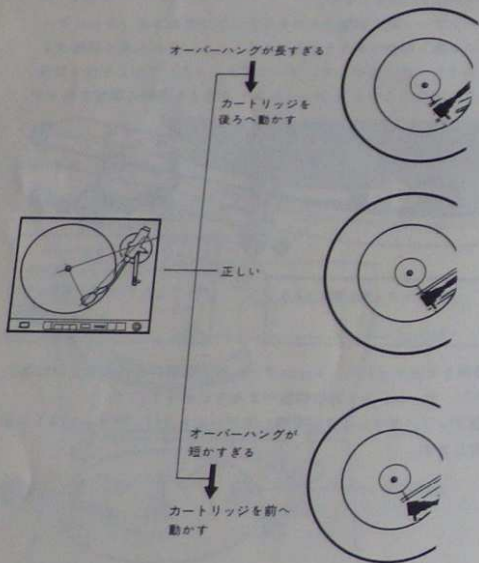


- ③高さが決まったら、トーンアーム高さ調整つまみをもとの位置に戻し、アームレスト高さ調整つまみをしめます。
- ④アップ/ダウンボタンを押してアームを上げ、アームレストに固定します。

オーバーハングの確認

カートリッジをヘッドシェルに取り付ける際に、針先とシェルの縁元の距離が約49mmになっていれば、オーバーハングはほぼ合いますが、最終的な確認は、ゴムシート裏面に刻まれたゲージを使って確認します。オーバーハングが正しくなければ、オート演奏時に針の降りる位置がずれることがあります。

- ① ゴムシートを裏返してのせます。
- ② ゴムシート上にトラッキングエラー確認ゲージが刻まれています。ゲージ上の細い2本の直線の交点に、アップ/ダウンボタンを押して針先を静かに降ろします。シェルがゲージの太い線と平行していれば、オーバーハングは正しく調整されています。平行でない場合は、カートリッジ取り付けねじをゆるめ、下の図を参考にしながら正しい位置になるようカートリッジを前後させて針先の位置を変えます。正しく調整したらねじをしめゼロバランスをとりなおします。



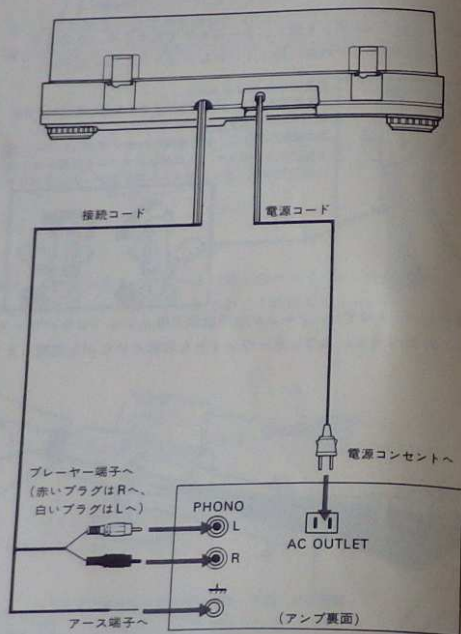
*オーバーハング

レコードのみぞを刻んでいくカッターヘッドの動きは、中心に向かって直線ですが、レコードを再生するトーンアームの動きは、アーム軸を支点としているため弧を描きます。この動きのちがいが再生音に影響を与えるため、アームがカッターヘッドの動きのように直線に近い状態で動くように、アームに角度(オフセット角)を設け、さらに、針先がセンタースピンドルから本機の場合は13mm前方になるようにします。これをオーバーハングといい、カートリッジをヘッドシェルに正しく取り付け、さらに、ゲージを使って確認することにより、正しいオーバーハングが得られます。

接続

ご注意

- アンプの電源を切ってから接続してください。
- 振動や万一の衝撃に耐えるように、接続コードは少したるませておいてください。
- プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。

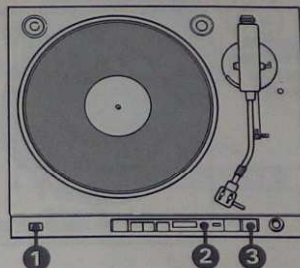


レコード演奏

- レコードをターンテーブルにのせ、番号順に操作します。45回転(ドーナツ盤)のレコードの場合はアダプターをお使いください。
- アームレストは止めをはずしておきます。使用後は元に戻して、トーンアームを固定しておきます。
- 演奏が終わるとターンテーブルは止まり、アームは自動的にアームレストに戻ります。



オート(自動)演奏

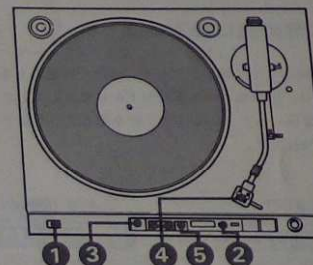


- ① 電源スイッチを押してONにします。
- ② レコードのスピードに合わせます。(電源を入ると、自動的に33回転にセットされます。)
- ③ スタートボタンを押します。演奏が始まります。

ご注意

- レコードサイズ自動検出機構は、光を通しやすいレコードでは、レコードをのせていない状態と同じになるため動作しません。この場合は、マニュアルで演奏してください。
- 電源スイッチをOFFにするときは、アームがアームレストに完全に戻ってからにしてください。途中で電源を切ると、アームはそのままの状態で止まります。この場合は、もう一度電源スイッチをONにしてください。アームはアームレストに戻ります。

マニュアル演奏(途中から演奏を始める場合など)



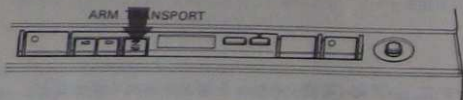
- ① 電源スイッチを押してONにします。
- ② レコードのスピードに合わせます。(電源を入ると、自動的に33回転にセットされます。)
- ③ モーターオン/オフボタンを押します。ターンテーブルが回転し始めます。
- ④ アームをレコード盤上の希望の位置に持っていきます。アームを手で動かす代わりに、アーム移動ボタンを押してアームを動かします。希望の位置のところにくるまで<のボタンを押し続け、必要に応じて、<または>のボタンを1回、2回……と押して、針を降ろす位置を正確に決めます。
- ⑤ アップ/ダウンボタンを押します。アームはレコード盤上に降り、演奏が始まります。

ご注意

リターン検出満にアームを降ろすと、オートリターンしないことがあります。これは、エンド検出する前にアームがリターン検出満の最後にきてしまうためです。このときはストップボタンを押して、アームをアームレストに戻してください。

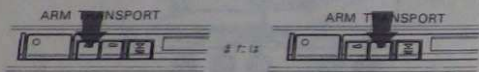
演奏を一時中断するには

レコード演奏を一時中断しましたすぐに同じところから演奏を続けたいときは、アップ/ダウンボタンを押すとアームが上がります。再びボタンを押すとアームは下がります。



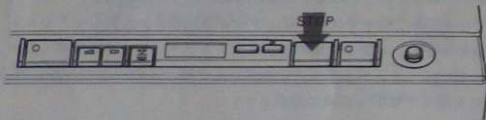
演奏中に別の曲に移るには

動かしたい方向のアーム移動ボタンを、希望の位置にくるまで押し続けてください。針の降りる位置をわずかに動かしたいときは、ボタンを1回、2回……と押します。針を降ろすときはアップ/ダウンボタンを押します。



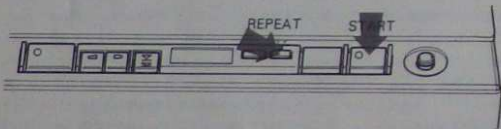
演奏を途中でやめるには

ストップボタンを押します。ターンテーブルの回転は止まり、アームはアームレストに戻ります。



リピート演奏をするには

スタートボタンとリピートボタン両方を押してレコード演奏を始めます。リピートボタンのLEDインジケーターが点灯し、同じレコードをくり返して演奏します。リピート演奏をやめるにはリピートボタンを押します。リピート演奏の途中で演奏をやめたいときはストップボタンを押します。



レコードの頭出し (キューイング)

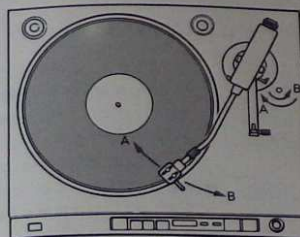
本機はハイトルクのリニアBSLモーターを採用し、さらにトーンアームと独立してターンテーブルを自由に回転できるため、レコードのダビングなどに便利な頭出し (キューイング) が容易にできます。アップ/ダウンボタンを押してカートリッジをレコード盤上に降ろし、アンプのボリュームを上げ、手でゆっくりまわしながら曲の頭を見つめます。(このとき、モーターオン/オフボタンは絶対に押さないでください。) 曲が始まる場所にカートリッジをセットし、図の位置から中央の位置までそっと反対方向に回転させます。ターンテーブルから手を離し、モーターオン/オフボタンを押すとレコード演奏が瞬時に始まります。

この位置から中央の位置までそっと反対方向に回転させてから、MOTOR ON/OFFボタンを押す



針降下位置の調整

レコードを自動演奏したときに、針がレコード盤上の正しい位置に降りるよう出荷時に調整されていますが、万一、ずれてしまった場合は、正しい位置に降りるよう調整します。針位置調整穴のゴムキャップをとりはずし、付属の金具を使って、針を内側に移動させたい場合は中のネジを右(●)に、外側に移動させたいときは左(○)にまわします。30cmのレコードで合わせておけば、17cmのレコードの場合も正しい位置に針が降ります。



手入れのしかた

針先のゴミ

良い音質を楽しむために針先のゴミは演奏する前に必ず落とすようにしてください。柔らかい筆やハケを使って、針のうしろから前に向けてそっと動かしてゴミを落とすようにしてください。

キャビネット、ゴムシートの汚れ

キャビネットは柔らかい布でからぶきしてください。アルコールやベンジンなどの溶剤やぬれた布などは、表面の仕上げをいためますので使わないでください。ゴムシートが汚れたときは、水洗いして陰干しにします。

注油

このプレーヤーは注油の必要はありません。

主な規格

ターンテーブル部	
ターンテーブル	32cm、アルミダイキャスト
モーター	リニアBSLモーター (ブラシレス・アンド・スロットレス) ダイレクトドライブ
駆動方式	
制御方式	クリスタルロック・マグネディスクサーボ
回転数	33 $\frac{1}{3}$ 、45rpm
起動特性	1/2回転以内(33 $\frac{1}{3}$ rpm)
ワウ・フラッター	0.015% (WRMS) 回転系 0.025% (WRMS)
S/N	
負荷特性	78dB (DIN-B)
速度偏差	0% (針圧150gまで、レコード盤最外周) ±0.003%
オートマテック方式	リードイン、リターン、リジェクト、リピート、 レコードサイズセレクト、 アンチスキューティング調整

トーンアーム	
型式	電子制御トーンアーム、ユニバーサル
有効長	235mm
全長	330mm
オーバーハング	13mm
トラッキングエラー	+2°40' ~ -1°40'
針圧調整範囲	0~3.0g
シェル自重	11g
使用可能カートリッジ (付属シェル含む)	12g~19g 19g~26g (補助ウェイト使用)

電源、その他	
電源	AC 100V、50/60Hz (周波数切り換え不要)
消費電力	12W
大きさ	480×165×420mm (幅/高さ/奥行) 最大突起部を含む
重さ	13kg
付属品	45回転アダプター(1)、補助ウェイト(1)、 ヘッドシェル(1)、カートリッジ取り付けビス (1式)、針位置調整用金具(1)
別売アクセサリ	MM カートリッジ: XL-45II MC カートリッジ: XL-44/44B、XL-55、 XL-55Pro シェル: SH-165、SH-160、SH-145 ヘッドアンプ: HA-55、HA-50

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 万一故障した場合の無料修理期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

- 調子が悪いときはまずチェックを → “故障とお考えになる前に”の項を参考に、故障かどうかお調べください。
- それでも具合の悪いときはサービスへ → お買い上げ店、または添付の“サービス窓口のしおり”にあるお近くのソニーサービス窓口にて修理をお申しつけください。
- 保証期間中の修理は → 保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は → 修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理いたします。

なお、ステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。

出張修理をご依頼になるときは次のことをお知らせください。

- 型名: PS-X75
- 故障の状態: できるだけ詳しく
- 購入年月日
- 住所、氏名、電話番号、道順
- 訪問希望日

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店、またはソニーのサービス窓口、ソニーインフォメーションセンターにお問い合わせください。

故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
スタートボタンを押してもアームはレコード盤に降らないでアームレストに戻る	光を通しやすいレコードを使っている レコードのツリが大きい	マニュアルで演奏する
オート演奏時に17cmのレコードをかけても、アームは30cmレコードの点に降ります	ゴムシートが正しくのっていない 付属以外のゴムシートを使っている	ゴムシートのプリズムとターンテーブルの穴が合うようにのせる 付属のゴムシートを使う
音が悪い	アームのゼロバランスまたは針圧調整が正しくない 針先にゴミがついている 針がすり減っている	ゼロバランス、針圧の調整をしない(⇒9ページ) やわらかいブラシでゴミをおとす 針を交換する(針の寿命はダイヤ針で約400時間)
ゼロバランスをとろうとしてもアームリフターが上がって調整できない	アームが調整エリアの外にある	アームをエリア内に戻し、アップ/ダウンボタンを押してアームリフターを下げる
オートリターンしない	リターン用の溝の浅いレコードを軽針でトレースさせている	針圧を重くする
片側のスピーカーから音が出ない	接続コードがしっかり差し込まれていない	接続コードをしっかりと差し込む
ブーンという低い音が聞こえる	シェルのとりつけがゆるい アース線がアンプにとりつけられていない	ロックングナットをしっかりと締めつける(⇒8ページ) アース線をアンプにとりつける(⇒10ページ)
針とび、針が流れる、アームが途中で進まない	針圧が適正でない 水平に置かれていない レコードに傷がついている	正しい針圧をかける(⇒9ページ) 水平になるようにプレーヤーの足の高さを回して調整する
ハウリング	外部からの振動を受けやすい場所に置かれている スピーカーの近くに置かれている	振動の少ないところに置く スピーカーから離す

本機の規格および外観は予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソニー株式会社

